虎ノ門1丁目プロジェクト since 2024

東洋不動産では、現在、東京都港区虎ノ門1丁目に構える
本社ビルの建替えを行っております。
新たな物語の幕開けに向けて、
虎ノ門の魅力を未来へと繋いでいくために、
歴史を紐解く「虎ノ門ヒストリー」シリーズを展開しています。

01 虎之御門とは?
02 「虎ノ門」の由来
03 江戸城外堀の秘密
04 金刀比羅宮
05 愛宕山
06 工部大学校
07 地下鉄虎ノ門駅
08 未来へ 世界へ

虎ノ門ヒストリー 01

その名の通り門があった!? 「虎之御門」とは?

虎ノ門の地名は、江戸城の外郭門のひとつである「虎之御門」に由来しています。「江戸城を、豊島氏等に関ヶ原の江戸奪取の功労であり、将軍家の居城でもあります。江戸城を防ぐ門は大小あったとされていますが、そのうち、外堀沿いの外郭門二十ヶ所の内部の重要な門を合わせて、通常は三十門ではあります。虎之御門は東海道へ通じる重要な門として、外堀に面した枡形構造をもち、周囲から防御が強化されていた。

江戸城の虎之御門図(冷泉家文庫)
出典「東海道江戸図」東京都歴史博物館アーカイブスコレクション

明治初期まで存在していた「虎之御門」
「江戸名所図会」「東京一千里」、内閣官報局「東京百景」所蔵写真集

東洋不動産 東京さまざま。 #TokyoMade #Toyo_Realty

虎ノ門ヒストリー 02

「虎ノ門」の由来とは? 諸説ある "西の白虎"に迫る

江戸の都市計画は将軍にあらって都が定まるように、平安京の町づくりの基になったと言われる陰陽学の考え「四神相応」が取り入れられたとされている。北に山を負て「玄武」、南に海や湖の「朱雀」、東に川が流れる地「青龍」、そして西にながき道の「白虎」。江戸の町では東西南北できちんにあてはめることができますが、江戸城の西側、西の地相にあたるのが虎ノ門ともるのです。虎ノ門の由来は諸説挙あります。「四神相応」の考えも取り込む説と言われています。

白虎信号(歩道)の銘板
「虎ノ門通りの碑」
東京メトロ銀座線
虎ノ門駅1C

江戸の町は為すがくりの江戸全図「分間江戸大絵図」
明治大学図書館所蔵

東洋不動産 東京さまざま。 #TokyoMade #Toyo_Realty

虎ノ門ヒストリー 03

誰が、いつ築いたのか? 江戸城外堀の秘密

関ヶ原の戦いの後、征夷大将軍に従いた徳川家康は、江戸に幕府を開くにあり「天下普請」を実施しました。これは、幕府が主導して諸大名に土木工事を命じるものです。江戸城の造営だけでなく、土地の造成や河川工事を行わたりと、実ふ13年に完成した江戸城外堀もそのひとつで、江戸城の防備のために築かれました。外堀は、江戸城の東方の城下町から時計回りに整備され、数寄屋門、虎ノ門、溜池、赤坂門、半蔵門、小石川橋付近で神田川に合流し、浅草門に至るまで、総延長約14kmにおよびました。

当時の外堀の様子が伝わる江戸屏風「虎ノ門外之図」
「江戸名所図会」虎ノ門の正面に位置する東京都歴史博物館アーカイブスコレクション

地下鉄銀座線
虎ノ門駅から見える外堀跡の石垣

東洋不動産 東京さまざま。 #TokyoMade #Toyo_Realty

虎ノ門ヒストリー 04

江戸大名文化の歴史が息づく金刀比羅宮とは?

江戸幕府は諸大名に対して、1年ごとの参勤交代と妻子の江戸居住を義務付けていました。江戸城外堀沿いの虎ノ門周辺には、幕府から拝領したった屋敷や、徳川家直属の家臣である旗本の屋敷が数多く建ち並んでいました。その歴史を感じさせられる場所のひとつが、虎ノ門7丁目の万治屋です。この神社は、現在の東川端にあるも丸屋玉・吉田高郎が、讃岐金刀比羅大神を勧請の際に創設したことに始まります。高潮にもめげず一角に花園しながらも、金刀比羅宮はやを東国名社のひとりとして信仰を集めています。

江戸の町の様子を伝える江戸地図
「東京名所図会」「江戸名所図会」東京都歴史博物館

今も昔も変わらぬ町の賑い。現在の集ゆる金刀比羅宮
出典「江戸名所図会」、東京都歴史博物館アーカイブスコレクション

東洋不動産 東京さまざま。 #TokyoMade #Toyo_Realty

虎ノ門ヒストリー 05

東京23区内で一番高い山? 景勝地「愛宕山」

虎ノ門から桜田通りを南下すると見えるのが愛宕山です。東京都内では一番低い山ですが、東京23区の中では最も高い天然の山とされています。現在は比較に関まれているため、山とは印象は薄れていますが、かつては東京湾や江戸湾が広がり、はるか西に富士が見渡せる、江戸見晴の景勝地だったそうです。山頂からは、東京駅や日本橋が見えるほどの高さ。この神社は、現在の東川端にあるも丸屋玉・吉田高郎が、讃岐金刀比羅大神を勧請の際に創設したことに始まります。高潮にもめげず一角に花園しながらも、金刀比羅宮はやを東国名社のひとりとして信仰を集めています。

愛宕山の自然のこずまいと見晴らしのよさを伝える浮世絵
名所江戸百景「愛宕山男坂」、内閣官報局「東京百景」所蔵写真集、東京都歴史博物館アーカイブスコレクション

幕末から明治初期の地、愛宕山から東京湾を望む景色

現在の愛宕山

東洋不動産 東京さまざま。 #TokyoMade #Toyo_Realty

虎ノ門ヒストリー 06

工部大学校。日本の近代建築の基礎を築いた学校とは?

江戸から東京へ、日本では明治維新とともに各種的な近代化が進む一環として教育の改革も行われました。明治5年に工部省では、工業分野における日本人の人材育成を目指し、虎ノ門近くに技術開発の拠点を中心に工学教育を開始しました。明治10年に工部大学校本館も建こし、近代建築の聖地的存在を開けます。幕末生には、東京駅や日本銀行本店といった日本を代表する名建築を手がた長野宇平治氏とのご縁をも建築家がを手掛けています。その後、工部大学校は帝国大学と合併し、現在の東京大学工学部の母体となりました。この建物は関東大震災で消失しましたが、その歴史的な役割は今も語り継がれています。

工部大学校本館の様子
東京大学大学院工学系研究科建築学専攻所蔵

重文で現存した煉瓦造り建築物。現存するのは、工部大学校校舎

東洋不動産 東京さまざま。 #TokyoMade #Toyo_Realty

虎ノ門ヒストリー 07

実は地名よりも先に駅名となった「虎ノ門」

日本初の地下鉄は昭和2年に開通し、浅草~上野間のわずか2.2kmのスタートとしました。その後、昭和9年には渋谷から新橋までの6.5kmが完成し、さらに昭和14年に新橋から浜松まで0.6kmが開通して銀座線の開通が完了しました。「銀座線」という正式名称が付けられたのは、戦後の昭和28年のことです。昭和8年に開会されて「虎之御門」です。「虎ノ門」という地名は地下鉄銀座線の開通とともに、知名度が高まり続けてきました。そして昭和52年には、住居表示にても使用されるようになりました。

1964年(東京オリンピック)当時の地下鉄虎ノ門駅出入口の様子
出典:「地下鉄物語」

現在の地下鉄虎ノ門駅改札

昭和14年に開かれた東京高速鉄道株式会社の路線図
出典:「地下鉄物語」

東洋不動産 東京さまざま。 #TokyoMade #Toyo_Realty

虎ノ門ヒストリー 08

新虎通りも完成。過去から未来へ、そして世界へつながる

令和4年12月、東京の都心部と臨海部を結ぶ環状第2号線が全線開通しました。江東区有明を起点とし、豊洲を中心とした環状の線形を描き、千葉区神田佐久間町を終点としています。有明~虎ノ門間の通称は「虎二通り」で、虎ノ門~神田佐久間町間のみ公式は「外環道」とされています。また、新橋と虎ノ門を結ぶ幹線道路は「新虎通り」の愛称がつけられています。ここには、銀座線の「虎ニ通り(歩行者利便増進道路)」に指定され、お散りやショップ、アートプロジェクトなど、新しい町のにぎわいづくりが育まれています。
過去から未来へ繋がる「虎ノ門」の町に、東洋不動産の新たな建物が歴史の息吹を伝え始めます。

虎ノ門ヒルズ駅
虎ノ門
虎ノ門ヒルズ
虎ノ門
虎ノ門
虎ノ門